

網走ほんりゅう組

第421号
網走教職員組合
〒090-0052
北海道北見市北進町4丁目5-31
TEL.0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
5月26日

第86回メーデー 憲法を守り生かす社会の実現を

北見駅前広場で労働者の祭典、第86回メーデーが開催されました。八六回メーデーが開催されました。北見労連に結集する労働者や民主団体、一般市民など一八〇人ほどの労働者が集まりました。

集会の冒頭、メーデー実行委員会を代表して、北見労連の森田議長挨拶の後、参加団体・労働組合から怒りの訴えがあり、闘う決意を表明するたびに共感と激励の拍手がわき起こりました。

網走教組からは、大坪委員長が道徳の教科化の問題を取りあげ、「特定の価値観を子どもたちに押しつけ、子どもたちを国や財界の都合のいい『人材』にしたてあげ、子どもたちの未来を奪うのが『教科道徳』であり、網走教組は反対するとともに人

メーデー網走集会

網走のメーデーは五月一日にエコーセンターにて行われました。昨年度は、交流会からのスタートでしたが、今年は学習会的な雰囲気漂わせながらの集会のような？催しとなりました。

参加者こそ一六名ではありませんでしたが、網走教組からは、実行委員として戸松先生の活躍があり、代表として、長谷川先生から教育の現場の現状が報告されました。安倍内閣の教育に関する施策がどのような歪みを生んでいるかについて話されました。

他に、气象台の職員さんや、高等学校の先生からもお話がありました。また、新婦人の方からは子どもを取り巻く環境についてお話があり、本来は子どもを守り、育てる役目を受け持つべき学校が、上辺だけの対応になっていて子どもの受け皿として本来の姿を失いかけてはいないかといった主旨のご指摘があり、考えさせられました。

青年部学習会 元気の出る活動に!!!

5月16日(土)に札幌の道教組本部で全道青年部総会がありました。網走教組からは青年部代表として山本が出席してきました。全道の各単組から10名の参加があり、後志連絡会からは3月まで網走教組の仲間であった能代先生が来ていました(後志でも元気に活躍しているようです。網走教組の皆さんにもよろしくお伝えくださいと言っていました)。ここ数年の総会の中では参加者が多く、昨年度の総括や今年度の方針について熱心に議論がなされました。総会の中で、一人一人が主体的に取り組む青年部の活動を通して、道教組や各単組に元気や希望を届けよう。私たちも楽しみながら企画・運営・参加をしようという思いで一致し、今後もお互いに交流をしていこうという話がされました。総会の後は交流会も開催し、楽しい時間を過ごしました。

9月に青年部企画「オトナの社会見学in小樽」の開催を予定しています。網走教組からも青年・自称青年問わず、たくさんの参加を期待しています。(文責 山本 仁史)

平和大行進

5月11日(火)、今年度の平和大行進が、北見駅前広場を会場に行われました。行進に先立ち行われた集会では、網走教組から山本先生が、学校で歴史を学ぶ意味は、過去の失敗や成功を学び、よりよい未来をつくる力にするためであり、そういう意味では、国は歴史から未来を創るという視点に立たず、過去の失敗をまた繰り返そうとしているという話をしました。今、憲法を変えるという動きに代表されるように、政府は、日本を戦争する国につくりかえようとしています。集会の後、子どもたちが安心して暮らせる平和な世の中への願いを込めながら、駅前広場から北見市内をデモ行進しました。この日、網走教組からは2名が参加しています。参加した組合員のみなさん、ご苦労様でした。



今年度もまだバ!

五月九日(土)、北見市立西小学校において、北海道生活教育研究会と合同で第四一回の「まなびバ」が行われました。午前・午後を合わせて八名の参加で、四本のレポートが発表されました。(組合員から五名、新採用の先生や未組織の先生、NPO常呂川自然学校の代表の方が参加)また、おいしいコーヒールも入れていただきました。

レポートでは、和田からは今年度の特別支援学校小学部の配属学級の様子。若狭先生からは、「指導が困難」と学校では押さえられている小四の学級についての報告がありました。山本先生からは、特別支援学級で子どもの声を聞きながら柔軟に対応している様子が話されました。また、大坪先生からは、初めて担当する「ことばの教室」についてのレポートで、授業の中で子どもと仲良くなること、信頼関係を作っていくこと、また、保護者や担任の先生とつながっていくことの大切さ、ことばの教室での活動が「治療」か「教育」なのかの難しさなどが話されました。

新採用の先生からもいくつかの質問があり、学級のみんなで話しをすることの大切さなどが話されました。また、常呂川自然学校の活動や課題なども紹介されました。充実した時間を過ごした今年度初めての「まなびバ」でした。